

放射線科学

放射線科医の産業医として思うこと

牧野 直樹

産業医として名目 16 年、実働 11 年の経験がありますので、その経験から得たいくつかの考えと主張を中心に述べさせて戴きます。

産業医になったそもそものキッカケは某企業立病院の部長会に出席する幹部職員になった時点で、会社からの内意を伝えられたのが始まりでした。「この忙しい中随分無茶な話だなあー」と思い、院長室で直談判したのを覚えています。当時の S 院長は「放射線科医の general な知識は希少価値があるし、産業医には最も向いているとかねがね思っていた。まずは自由に適当にやってみてくれ」と言われ更に、「丁度岐阜で集中講義があり僕も行くんだが、まだ一人だけ枠が余っている筈だから」と言われ、一緒に岐阜まで基礎科目の講義を受けに行きました。院長の「まずは隗より始めよ」に心を打たれたのが実情だったかもしれません。

実際業務についてみますと、放射線科医は実は産業医にもっとも向いている臨床医であると実感しました。勿論今はやりのメンタルヘルスや生活習慣病に少し疎いところはありますが、その分悪性腫瘍の知識はオールマイティーでスペシャリストです。最近の化学療法 of 進歩も具に見ています。乳癌や悪性リンパ腫はもとより、胃癌や肺癌、腎癌の分子標的薬の効果、また卵巣癌や肺癌では、組織型別に個別治療がなされています。粒子線治療や強度変調放射線治療の進歩があり、放射線診断医はこの事実を常時体験しています。すなわち全ての領域を公平な目で見られる環境にあります。抗癌剤に伴う間質性肺炎や腎障害に対しては、当該診療科へ最初に警鐘を鳴らせる立場にあります。この率直に直言できる感覚は産業医の業務でも役立ちます。

内科領域も腎臓病の薬剤治療の進歩や糖尿病治療への新薬の投入が目覚ましくなっています。高脂血症に革新的な新薬が出て来ています。C 型肝炎、B 型肝炎の治療に有効な内服薬が加わりました。TAVI という大動脈弁狭窄症に経カテーテル大動脈弁留置術を見えています。呼吸器も喫煙関連疾患は慢性閉塞性肺疾患の治療が吸入薬の進歩でコントロール期間が著明に延長しています。喫煙関連肺疾患には新たな展開があり、肺気腫と間質性肺炎の合併がタバコに関連し、そこからの発癌の原因になる事実が分かって来ました。そしてその他の喫

煙関連癌を含めての診断には、放射線科診断医が深く係っています。高脂血症や高血圧症の治療でハードルが下がった反面、糖尿病や腎臓病、肝炎、閉塞性肺疾患などの治療には更に専門性が出てきています。一方で爪白癬がチンキで治る様になりました。少し雑学が必要ですが、放射線科医の守備範囲が増して来ており、それに伴い産業医としての放射線科医の需要も然りと思えます。ただこの雑学への対応で本業が疎かになる事もなくはありません。実は今は自分では最も自信がある処ではありますが、PET 診断の端緒に乗り遅れそうになりましたし、マンモグラフィの認定医を取り損ないました。

産業医は健康管理の業務は雑多にあります。相談者本人の癌ノイローゼから夫人の癌治療の相談があります。禁煙指導や生活習慣病の対策や治療方針の指導、珪肺症の診断と登録、大事な労災判定、超過勤務者の健診、メンタル患者の復職指導などそれなりの仕事もありますが、揚句は作業靴の爪白癬の治療まで対応しなければなりません。必然的に広い範囲をカバーしなければなりません。一般病院では日常業務の延長線上です。しかし一般には医者にとっては不慣れな作業管理や作業環境管理があります。具体的には粉塵測定や騒音測定、照度測定です。またその結果の判定をし、結果に基づいた月一回は職場巡視があります。しかしこれらも放射線撮影室や治療室の漏洩線量測定やアイソトープ室のスミアテストに比べれば簡単な事です。data 解析もフィルム黒化度測定で、線量測定や線源の焦点測定、MTF 測定まで経験している放射線科医には決して難しい作業ではありません。大変な手計算はいりません。

職場巡視は CT、MRI、一般撮影室、放射線治療室、アイソトープ室をいつも行き来している放射線科医には何の違和感も苦痛もありません。現場でもラインの工員の習熟度は彼が醸し出す雰囲気と動線、その目配りの利いた視線で分ります。ライン上に起こる予想外の出来事にも対応できる姿勢があるかどうかも重要でしょう。丁度撮影室で働く放射線技師が見せる雰囲気を見るのと殆ど同じです。放射線診断医でも、モニター上での目線の動きを見ればその熟練度が分かります。優秀な工長は部下達の一寸した雰囲気の変化も見逃さないのだと思えます。某グローバル企業の現場の強さはそこから来るものと思われま。一見難しいことかもしれませんが、実は慣れれば簡単な事です。

例を挙げれば、歌舞伎や新劇の舞台を見ているのと同じです。かなり古い話で恐縮ですが、前進座の中村翫右衛門、民藝の滝沢修や宇野重吉、俳優座の小沢栄太郎や東野英治郎、文学座の杉村春子、無名塾の仲代達也などの一糸乱れぬ緊迫感漂う演技をする人達の中で、間を外す愚か者を見つけるのが逆に極めて簡単な事と似ています。また今はどうかは分かりませんが、30年程前に名大

医学部図書館の閲覧室で体感した緊迫感と集中力は大変なものでした。中にこれに紛れて嫌々資料集めをしている学生を見つけ出すのが極めて簡単で自然に目が行ったのを覚えています。逆に某企業立病院では仕事に集中している職員を見つけ出すのが極めて簡単でした。ただし弁護しておきますが、これは私が経験したどこの病院事務でも大差はありません。例外的に刈谷の某企業立病院を除けばですが…。職場巡視も多くの放射線科医には簡単な作業と思います。

更に自慢話で恐縮ですが、その某グローバル企業のある工場へ産業医として派遣された時の経験談を一つを披露させて戴きます。そこは溶鉱炉がある、小さいながらもその企業の代表的な工場でした。その企業の中興の祖である豊○英○氏の肝いりで作られ、同氏の武勇伝も多く、同氏の思い入れの強い工場だと聞いていました。また少し前に国中でもはやされた、○○○生産方式のメッカの工場でした。産業医中にはその工場で、その生産方式の神髄に触れて感動した場面も多く、いつか別の機会があったら披露させて戴きたいと思います。必然的に工員たちにもプライドの高い人達が多かったと思います。私が初めて巡視をした時、その彼らが照度の低い現場で、手暗がりの中粉塵と闘いながらで苦勞していたのを見つけ(ご当人たちは実際には気づいていなかったでしょうが…)、現場案内をしてくれた次長さんに、「こんな手暗がりの中で働いていたら、危険と隣合わせでしょう。まさかわざわざ照度を落として、粉塵を隠しているのではないでしょうね。大体この粉塵が気に入りませんね。タバコを吸わない私には耐えられませんし、塵肺症の温床でしょう。」といかにも挑戦的に言ってしまいました。しかも叩き上げの次長さんにでした。説明させて戴きますが、現場の次長さんとは行員の中では神様の様な存在で、約1000人の工員の頂点にいる人です。技倆、人格、見識とも卓越した人です。そんな人に少し皮肉っぽく言えば、少しは改善されるだろうとの予見で、少なからず魂胆があったのは事実です。しかし件の次長さんは案の定、一枚上手でした。「先生の新鮮な感覚は、勉強になりました。目先の改善に捉われて、大元を見落としていました。率直なご見解を今後とも宜しく願います。」と。早速書類が作成され一つのプロジェクトになった様ですが、2~3ヶ月後の確認の巡視時には現場は見違える様な明るさとなり、壁にはイルカが踊る壁画が描かれていました。ただ明るくなったことで粉塵濃度の高いことがあからさまになる副次効果がありました。その後はその工場の世紀の一大プロジェクトとなった「マスクレス運動」に繋がり、1年後にはみるみる粉塵濃度が下がり本当にマスクレスが実現する程の濃度に下がりました。その際「発生源を封じ込めるのが原則」との方向性を打ち出したのが、例の豊○英○氏でした。そんな上まで話が上がったのかと、

実は驚嘆したのを覚えています。そして一旦プロジェクトが動き出すと、ラインの末端からも優秀提案が無数に出され、それらが統合されて飛躍的な改善が実現したと総括しています。単にビギナーズラックだったかも知れませんが、全く素人感覚の私の提案も、チェッカーが立派でさえあれば、大きな進歩を遂げる優秀提案になり得るのでしょう。そのグローバル企業の現場には存分その素地があるのだと実感しました。ホンダを除いては他の自動車会社には真似のできない強みではないか思いました。

また粉塵排出源である鑄造部の現場巡視の際には、私は敢えて白衣を着用して回りました。壁に触れたり、手摺を持っただけで、少なからず汚れました。白い中に黒い汚染はいかにも目立ちます。狙いどおりでマスクレス運動の最中にはこれが大きなアピールになった筈です。作業衣ではいかにも目立ちませんので hit だったと思っています。しかし結局は予想以上に大きく改善されました。改善が実現された後には、豊○英○氏も満面に笑みをたたえながら、不自由な体をおして巡視をしてくれました。後に鑄造部の課長さんが「先生があんなにあざといパフォーマンスをしてくれるので、現場には強いプレッシャーになったんだよ」と言ってくれました。またこの会社の立派なことは、この改善が瞬く間に全社に展開され、数ヶ月の内に溶鉱炉のある他の2つの工場でも改善作業が終了したとの事ですし、系列企業にも展開されていったと聞いています。それこそが○○○生産方式のエンドポイントと理解しています。

10年以上の産業医の経験で、優良企業の改善を目指したあくなき向上心と、団結力、改善への底力を見せつけられました。その企業立病院には大した実績も残せなかったかも知れませんが、産業医としてはそのグローバル企業に少なからず貢献したと思っています。そして今年の3月に二度目の定年を迎え豊田厚生病院を退職して、フリーターになり下がってしまいました。しかし私の工場での働きを実績として高く評価してくれていた重役がおり、その人が優良企業に育て上げたある自動車部品メーカーに呼ばれ、再び産業医として二足の草鞋を履くことになりました。今後は放射線科医であることを生かした、産業医の新しいジャンルを開いていきたいと思っています。仲間の放射線科医にも産業医は奨めたいと思っています。最後まで読み進んで戴き感謝申し上げます。